

< 中学校道徳部会 >

研究主題

日本人としてのアイデンティティをはぐくむ指導の充実

— 内容項目 4-(9)を通じた効果的な指導の工夫について —

研究の概要

経済・社会のグローバル化が急速に進む中、国際社会に生きるための広い視野をもつには、子どもたち一人一人が自分に自信をもち、家庭、学校、地域への帰属意識を高め、我が国の歴史や伝統文化などについての理解を深める教育、すなわち、日本人としてのアイデンティティをはぐくむ教育が重要である。したがって、学校教育全体はもとより、道徳の時間における内容項目 4-(9)の指導を通して、「日本人としての自覚をもって国を愛し、国家の発展に努めるとともに、優れた伝統の継承と新しい文化の創造に貢献する」心情や態度を育成することが大切である。

I 研究の目的

道徳の時間における内容項目 4-(9)の効果的な指導方法の開発を行うとともに、各教科・特別活動及び総合的な学習の時間等との関連を図り、学校教育全体で推進する指導計画を作成する。

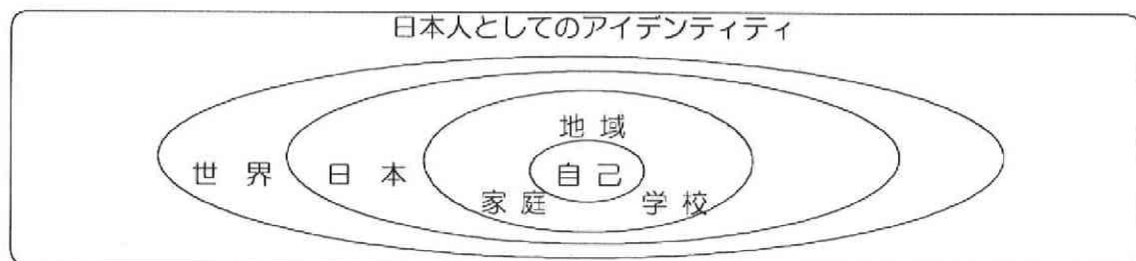
II 研究の方法・内容

1 研究の基本的な考え方

(1) 日本人としてのアイデンティティ

本部会では、アイデンティティを「自分が一貫して自分自身であるという安定感をもちながら、しかも社会の中の一員として機能していると意識できる自己存在感」であるととらえた。

「日本人としてのアイデンティティ」については、次のようにとらえた。まず、「自己」の関与する空間が広がり、他者との相互作用の範囲が家庭や学校、地域などの身近な集団への帰属意識をはぐくまれると、「自己」が確立していく。そして、「自己」の関与する空間が「日本」に広がると、「日本人としての意識」へと発展していき、「日本人としてのアイデンティティ」がはぐくまれる。さらに、「世界」へと広がると、「世界の中の日本人としての意識」へと発展していき、「世界の中の日本人としてのアイデンティティ」がはぐくまれることとなる。



なお、「自己」の関与する空間の広がりを促進する視点としては、「日本の文化・伝統の継承」、「国家の発展に尽くした人々への尊敬・感謝」などがあると考えられる。

(2) 内容項目 4－(9)の指導

本部会では、「中学校学習指導要領 解説―道徳編―」（以下「解説」と略記）に基づき、内容項目 4－(9)「日本人としての自覚をもって国を愛し、国家の発展に努めるとともに、優れた伝統の継承と新しい文化の創造に貢献する」について、次のようにとらえた。

日本の国土によってはぐくまれてきた文化や伝統に触れ体験することを通して、そこに住むことへの喜びが生まれ、日本人としての自覚をもてるようになり、日本の国土を大切にすることを心や態度がはぐくまれる。また、このような日本の国土をつくりあげてきた人々への尊敬の念や感謝の気持ちも生まれてくる。国を愛し大切にすることは、長い間にわたって、今、自分たちが生活している国をつくりあげてきた文化や伝統、先人や高齢者たちの努力に思いを寄せ、そのことに対する感謝の心を持ち、これを今後の人々のためにより発展させ引き継いでいこうとすることである。

中学生の時期は、我が国の国土や歴史に対する理解が深まり、文化や伝統に対しても一層関心をもつようになる。この関心をさらに高め、国を愛する心と国家の発展に寄与しようとする態度を育成するためには、自らの国の文化や伝統を深く理解し、尊重する態度を身に付けることが重要である。文化や伝統は、人々の日常生活の中に生き続けており、それらをじっくり見つめ直すことは、日本人であることの自覚を深め、郷土や国を愛し、誇りに思う心をはぐくみ、自己を確立していく。この自己の確立が「日本人としてのアイデンティティ」をはぐくむことにつながると考える。

(3) 内容項目 4－(9)の指導に当たっての留意事項

解説には、内容項目 4－(9)の指導に当たって留意することとして、「国を愛することは、偏狭で排他的な自国賛美ではなく、国際社会の一員としての自覚と責任をもって、国際社会に寄与しようとする点につながっている点に留意する必要がある」と述べている。さらに、配慮することとして、「『国を愛』することと、次の項目の『国際的視野に立って、世界の平和と人類の幸福に貢献する』こととは切り離せない関係にあることを配慮した指導が大切である」と述べている。他の国には日本と同じようにその国の伝統に裏打ちされたよさがあり、その国独自の文化と伝統に各国民が誇りをもっていることとを理解させ、他の国の人々や異文化に対する理解と尊敬の念をもつことと切り離せない関係であることに配慮した指導が必要である。

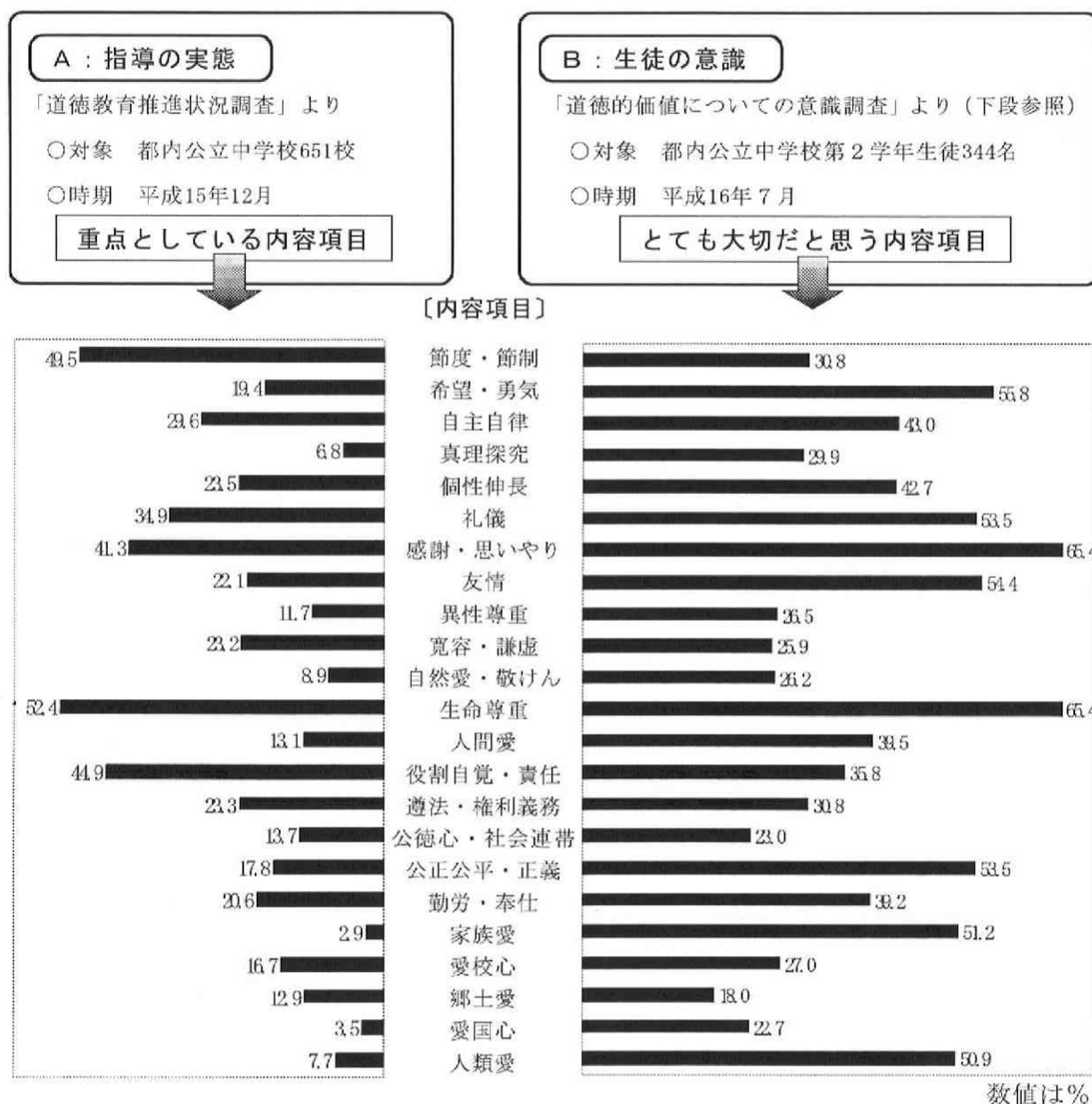
2 研究の方法

本部会では、上記の基本的な考え方にに基づき、各教科・特別活動及び総合的な学習の時間等との関連を図り、学校教育全体で推進する指導計画を作成するとともに、「自己」の関与する空間の広がりを促進する視点としてあげられる「日本の文化・伝統の継承」、「国家の発展に尽くした人々への感謝・尊敬」を主題として授業を構想した。

	指導事例 1	指導事例 2
視点	日本の文化・伝統の継承	国家の発展に尽くした人々への尊敬・感謝
資料名	「日本の盆」	「ジャパーン、ヤマシタ」

3 指導の実態と生徒の意識

平成15年度文部科学省の「道徳教育推進状況調査」における都内公立中学校が「重点としている内容項目」の調査結果〔A：指導の実態〕と、本部会の「道徳的価値についての意識調査」における都内公立中学校生徒（第2学年344名）が「とても大切だと思う内容項目」の調査結果〔B：生徒の意識〕は、次のとおりである。



〔A：指導の実態〕の上位では、「生命尊重(52.4%)」「節度・節制(49.5%)」があげられ、〔B：生徒の意識〕の上位では、「感謝・思いやり(65.4%)」「生命尊重(65.4%)」があげられる。一方、〔A：指導の実態〕の下位では、「家族愛(2.9%)」「愛国心(3.5%)」があげられ、〔B：生徒の意識〕の下位では、「郷土愛(18.0%)」「愛国心(22.7%)」があげられる。

参 照

「心のノート」8・9頁『いまここに23の鍵がある』を参考にして、23の鍵（23の内容項目）について、「A：とても大切だと思う。B：大切だと思う。C：あまり大切ではない。D：全く大切ではない」の4件法で調査した。

4 「日本人としてのアイデンティティ」をはぐくむ指導計画の作成

「日本人としてのアイデンティティ」の育成は、子どもたちの学校生活、家庭や地域社会での日常的な体験や行事、慣習、行動様式とかかわっている。各学校においては、家庭や地域社会との連携を含め、学校教育のそれぞれの場面において「日本人としてのアイデンティティ」の育成に関する一貫した指導を行うことが大切である。指導計画の作成は、それらの計画的な推進に際して重要な役割を果たすものである。

「道徳教育の全体計画」は、学校における道徳教育の基本的な方針を示すものであり、子どもたちが具体的な教育活動や日常生活の中で、道徳的価値を身に付け発展させていく基盤となる指導計画である。

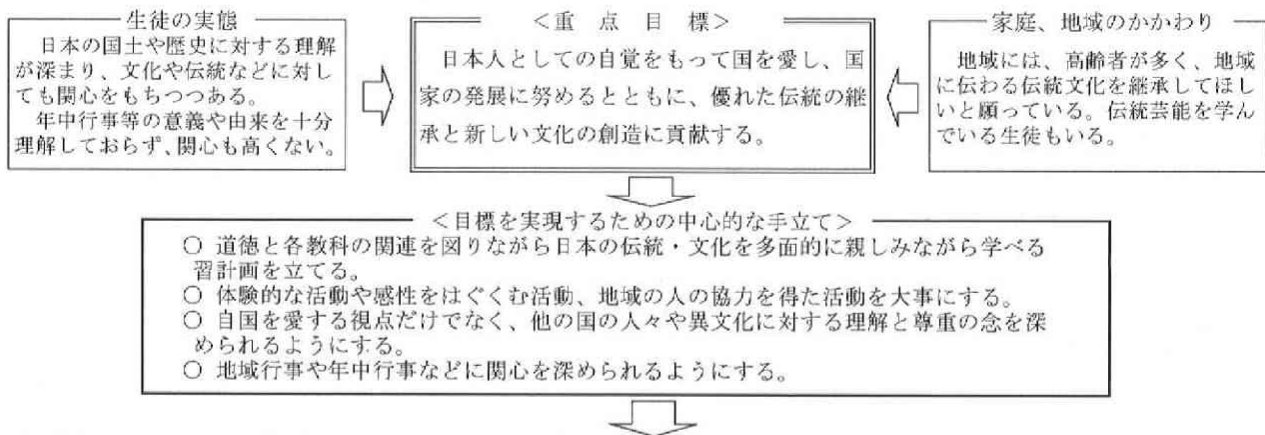
本部会では、これらのことを踏まえた上で、「日本人としてのアイデンティティ」の育成を重点目標として掲げた学校の「重点目標の指導計画」を試案として作成した。なお、これは、「道徳教育の全体計画」に添付するものである。作成する場合の工夫としては、次の点があげられる。

- 日常生活において大切にしていきたい文化や伝統を明らかにする。挨拶の仕方、時と場に応じた適切な言葉遣い、掃除の仕方などの日常的な行動様式も我が国独自の文化や伝統の反映である。生活に根付いている文化や伝統を意識し受け継ぎさらに発展させていくよう指導を工夫する。
- 学校が大切にしている文化や伝統を明らかにする。各学校には、校風があり、校歌や校旗、記念碑などをはじめとした様々なものがある。また、学校の文化や伝統を反映させた行事等もある。それらがどのような願いのもとにつくられたのかを教職員が共通理解し、学校の文化や伝統に親しみさらに発展させていく学習活動を計画する。
- 各教科の学習活動を明らかにする。例えば国語科における文化や伝統について描かれた教材を用いての学習、社会科における郷土や国土、歴史の学習、音楽科における日本の伝統音楽や古典楽器を用いての学習、特別活動における奉仕等の体験的活動、総合的な学習の時間における異文化理解の学習などとの関連を具体的に示す。
- 道徳の時間の役割を明らかにする。各教科や特別活動、総合的な学習の時間における文化や伝統を取り上げる学習や体験活動と関連をもたせて道徳の時間の内容項目4-(9)の指導を工夫する。
- 家庭や地域社会との連携を明らかにする。保護者や地域の人々と「文化や伝統を大切に」などの観点で、どのように連携を図っていくかを具体的に示す。特に、地域の文化や伝統を生かした行事と、学校における文化や伝統を大切にした教育活動とが重なるようにするなど、地域の人々との連携・協力を具体化する。

また、地域に在住する外国の人々との交流や国際親善行事等への参加などについて配慮する。日本の文化・伝統を知るとともに、外国の文化や伝統を理解し尊重する中から、国際理解や望ましい人間関係が築かれる。

- 学級・学校の環境の整備における指導の方針を明らかにする。学級・学校における人間関係への配慮や、教室や校舎等の物的環境の整備のほか、情報や言語環境（会話、板書、掲示物、通信等）についての整備の方法を具体的に示す。

＜「日本人としてのアイデンティティ」をはぐくむ指導計画（試案）＞



学期	各教科			道徳の時間 (主にかかわる主題)	特別活動	総合的な学習の時間
	1年生	2年生	3年生			
1学期	<p>＜国語＞「日本語の音声」 日本語の音声や表現について知る。</p> <p>＜技術＞「木造建築物」 宮大工に伝わる木材や道具に対する古人の考えを知る。</p> <p>＜社会＞「日本の国土」</p> <p>＜国語＞「漢字の成り立ち」 漢字について関心を深め自分の表現に生かそうとする。</p>	<p>＜国語＞「短歌の世界」 短歌独自の世界に関心をもち短歌への理解を深める。</p> <p>＜社会＞「日本の自然環境」</p>	<p>＜社会＞「人権と日本国憲法」</p> <p>＜国語＞「俳句の世界」 俳句が描き出す世界を想像し、俳句への理解を深める。</p>	<p>主題：日本の伝統文化（3年） 資料：木のいのち、木のこころ ＜ねらい＞ 法隆寺棟梁の口伝や先人の知恵を学び、自然を生かした日本の伝統文化を愛する心情を育てる。</p> <p>主題：伝統文化の継承（1年） 資料：ジャパーン、ヤマシタ ＜ねらい＞ 伝統文化の良さについての理解を深め、自分の国を愛そうとする心情を養う。</p>	<p>◇修学旅行（3年） ◇社会科学見学（1年） 「地域に伝わる伝統工芸を見直そう」 ◇高齢者福祉施設訪問（全学年）</p>	<p>「京都、奈良の伝統文化」(3年) ・文化 ・歴史 ・仏像 ・建造物 ・伝統産業</p> <p>「地域の福祉について考えよう」(1年) ・車いす体験 ・アイマスク体験 ・「イ・ベ」体験 ・施設訪問</p>
2学期	<p>＜音楽＞「和楽器」 篠笛の基本的な奏法を身に付け地域のお囃子が吹ける。</p> <p>＜英語＞「アメリカの日常生活」 日本とアメリカの生活の相違点に関心をもち、理解しようとする。</p> <p>＜美術＞「染色」 藍染めの用具や材料の特徴を生かしながら表現を工夫することができる。</p>	<p>＜国語＞「方言と共通語」 方言と共通語の意義を考える。</p> <p>＜音楽＞「和楽器」 三味線の基本的な奏法を通して、日本の民謡に興味をもつ。</p>	<p>＜音楽＞「和楽器」 和太鼓の基礎的奏法を身に付ける。</p> <p>＜英語＞食事の際の表現を学び、日本との違いを知る。</p>	<p>主題：国を愛する心(2年) 資料：日本の盆 我が国固有の優れた伝統文化のよさについての理解を深め、自分の国を愛する心情を養う。</p> <p>主題：国を愛する心(3年) 資料：さよなら、ホストファミリー ＜ねらい＞ 国際社会に生きる日本人として自覚を持ち、自分の国を愛そうとする心情を養う。</p>	<p>◇高齢者との交流活動（全学年） 「地域の高齢者に感謝しよう」 ◇地域清掃</p>	<p>「地域に関する学習」(1年) ・自己のテーマ決定 ・研究発表会</p> <p>「外国人講師から学ぼう」(3年) ・外国の遊びを楽しもう。 ・外国の伝統料理に挑戦しよう。</p>
3学期	<p>＜国語＞「古典」 古典に親しみ、古人の見方や考え方について関心をもつ。</p> <p>＜家庭＞「調理の応用」 地域の食材を行かした郷土料理の調理をする。</p>	<p>＜社会＞「日本の生活・文化」</p> <p>＜美術＞「ジャポニズム」 浮世絵独自の表現方法や特徴を理解し、日本の伝統的美術のよさを理解する。</p>	<p>＜国語＞「敬語」 敬語の種類や特徴について理解し、適切に使えるようにする。</p> <p>＜保健体育＞「武道」 相手の動きに対応した攻防ができるようになる。</p>	<p>主題：伝統文化の継承(2年) 資料：二人の王様 ＜ねらい＞ 優れた伝統の継承と新しい文化の創造に役立とうとする態度を育てる。</p>	<p>◇百人一首大会 ◇書初め大会</p>	<p>「地域に提案しよう」(3年) ・自分たちの地域を考えよう ・みんなが暮らしやすい環境を提案しよう。</p>

学習環境
・四季や年中行事を感じさせる
掲示物の工夫

基本的な生活習慣
・時と場にあった正しい日本語の使用

家庭・地域との連携
・学級・学校便り等での家庭・地域社会への情報発信

Ⅲ 指導事例

◇指導事例 1 〈第2学年〉

本事例は、自分たちの生活している国が作りあげてきた伝統や文化、先人たちの努力や思いに心を寄せ、伝統を引き継いでいこうとする心を育てようとするものである。

- 1 主題名 「愛国心、伝統の継承と文化の創造」(内容項目4-(9))
- 2 ねらい 日本の伝統・文化に対する理解を深め、それを継承する態度を養う。
- 3 資料名 「日本の盆」 倉嶋 厚 著 (出典 東京書籍『明日をひらく』第3学年)
- 4 資料の概要

本資料は日本の年中行事の一つである「盆」を題材とした随想文である。作者の繊細な感性が感じられる味わい深い作品である。日本の盆という行事を通して、日本人の心の優しさや日本人が大切にしてきた「心の盆路」について述べている。また、日本の自然や夏の風情への作者の愛惜の思いが伝わってくる資料でもある。

5 指導過程(授業の概要)

	学習活動(○)・教師の主な発問(発問)・生徒の反応(生徒)	指導上の留意点
導 入	<p>○日本の伝統行事についての興味をもつ。 (発問) これはある行事で使うものですが、何でしょうか。 (生徒) お盆の行事で使うもの。お彼岸のときに飾るもの、など。</p> <p>○本時のねらいとする道徳的価値について意識を向ける。 (発問) 今日の授業では、お盆の行事を通して受け継がれている日本人の心とはどのようなものか、考えていきましょう。</p>	<p>○お盆の仕度品を提示し、授業への関心をもたせる。</p> <p>○何について考えればよいかという視点を意識させる。</p>
展 開	<p>○資料「日本の盆」を読み、日本の伝統行事について考える。 (発問) 日本人にとってお盆はどんな意味をもつ行事でしょう。 (生徒) 故郷に帰って先祖の霊を供養する。亡くなった人を偲ぶ。</p> <p>○お盆の行事に込められた日本人の心について考える。 (発問) お盆の行事で、キュウリやナスで馬や牛の形を作ったお供えを見たことがありますか。このお供えには亡くなった人の霊がキュウリの馬に乗って早く帰ってきてほしい、戻るときはナスの牛に乗ってゆっくりと帰ってほしいという願いが込められています。 筆者はどんな気持ちからお盆について「やさしい気持ちがこれほどにじみ出ている行事はほかにあまりない」と言っているのでしょうか。 (生徒) 祖先に感謝し大切にしようとする思いが伝わるから。亡くなった人といつまでも一緒という思いがあるから。</p> <p>○日本人として伝統の継承について意識する。 (発問) これらの伝統行事や文化は、地域に根ざしたものが多く、地域の人々の思いや願い、つまり日本人としての心が脈々と受け継がれてきたものです。</p>	<p>○蝉の鳴き声の効果音をBGMに教師が読む。(夏の終わりの雰囲気を作る。)</p> <p>○人々がどのような気持ちでお盆の行事の仕度をするのか考えさせ、死者へのいたりや祖先への感謝、現在の家族のつながりまで気付かせる。</p> <p>○自分たちの周囲の身近なものだけでなく、日本全体の中から考えさせる。</p>

	学習活動(○)・教師の主な発問(発問)・生徒の反応(生徒)	指導上の留意点
展	<p>あなたにとってこれからも大切に伝えていきたい「日本人としての心」が込められているものには、どのようなものがありますか。</p> <p>(生徒)七夕、正月、七五三、お神輿、着物、書初め、落語、琴、三味線、太鼓、尺八、剣道、柔道、空手、相撲、どんど焼き、節句、など。</p>	<p>○あらためて日本の文化や伝統を振り返らせ、その中にある価値に気付かせる。</p>
開	<p>○文化や伝統の中にある日本人の心を自覚する。</p> <p>(発問) これらの伝統行事や文化は単に昔から伝えられ古いものだから価値があるということではありません。では、これらの伝統行事や文化には、日本人のどのような心が込められているのでしょうか。</p> <p>(生徒) 日本人の美意識、自然を大切にする心、昔の人や祖先を尊敬する心、家族を大切に思いいたわる気持ち、四季の豊かさを味わう心、優れた技術、など。</p>	<p>○伝統行事や文化には、地域の一員としての誇りや感謝といった思いが土台となり、集団社会の中で継承されていることに気付かせる。</p>
終末	<p>○教師の説話を聞く。</p> <p>(教師が自らの体験に基づいた伝統文化に対する思いを語る。)</p> <p>○『心のノート』(116頁・117頁)に、「優れた日本の文化について私たちがどのように受け継ぎ、よりよい文化として発展させていけばよいか」を考えながら、授業の感想を書く。</p>	<p>○日本の文化や伝統を尊重し継承することが、他国の文化や伝統の尊重につながることに触れる。</p>

6 考察

(1) 資料提示の工夫

本資料の題材である「お盆」については、日常生活での体験はもとより、知識さえもない生徒が増えている。そのため、お盆の仕度品などの実物を提示して説明をした。また、BGMで蟬の鳴き声を使って、資料に描かれている季節感を演出するなど、生徒の興味・関心を喚起するよう工夫した。

(2) 主体的な学習の工夫

随想文を活用しての授業では、生徒の話合いが抽象的や表面的にならないよう留意する。そのためには、生徒の多様な感じ方、考え方を引き出すように発問を工夫し、ねらいとする道徳的価値を視点に学習活動の中で自分自身を振り返り、主体的に考えることができるよう工夫した。

(3) 終末の工夫

教師の説話では、生活の中ではぐくまれた日本のよき伝統や文化、風物などの尊さについて、一人の日本人としての思いを生徒に伝えるよう工夫した。さらに、生徒一人一人が本時に学んだ道徳的価値についての思いや考えをまとめ、今後の発展につながっていくようにした。

	学習活動(○)・教師の主な発問(発問)・生徒の反応(生徒)	指導上の留意点
展 開	<p>○日本人としての自覚をもって国を愛することを考える。</p> <p>(発問) 山下選手を頑張らせたものは、何だったのだろうか。</p> <p>(生徒) 山下選手なりの国を愛する心。 会場の客席で振られていた日の丸の旗。 自分を支えてくれた多くの人たちの気持ち。 日本代表であるという自覚。 少年時代からの夢だった世界の人々に柔道を広めたいという気持ち。</p> <p>○教師の説話を通して、ねらいとする道徳的価値についての自覚を深める。</p> <p>(教師が自らの体験に基づいた国を愛することについての考えを語る。)</p>	<p>○「柔道を世界に広めたい」という思いの根底には、山下選手の国を愛する心があることに気付かせる。</p> <p>○「国を愛する心」について定義付けすることは避ける。</p>
終 末	○授業を振り返り、学んだことをまとめる。	○学んだことを振り返らせる。

6 考察

- (1) 教師の説話を通して、ねらいとする道徳的価値についての自覚を深める。

展開の後半で、教師の説話を通して、ねらいとする道徳的価値についての自覚をより深めさせるよう工夫する。授業で学んだことを発展させていくような内容とする。

《教師の説話例「教師自身の体験に基づいて語る」》

私が海外で体験したことです。アメリカのディズニーランド遊園地では毎日夕方の定刻になると、アメリカの国歌が流れ掲揚されていた国旗がおろされるのです。その時になると、一瞬静かになって、小さな子どもからお年寄りまで全員が遊びや話をやめて、かぶっていた帽子やサングラスをとり、国旗に向かって静かに気を付けの姿勢をします。そこにはアメリカ人はもちろん外国からの観光客もいましたが、みんながそのような行動をしていました。なぜでしょうか。

自分の国を愛し、誇りに思っているからこそそのような行動をする。そして、外国の人々は他の国の国歌や国旗であっても敬意をもって接する。国に対する思いが行動や態度に表われているのだと感じた、忘れられない光景です。

- (2) 資料活用の観点

本資料では、山下選手の「柔道を世界の人々に広めたい」、さらにそれを通して「柔道を通して自分のような幸せな気持ちを世界中の多くの人々に味わってもらいたい」という思いが、彼の国を愛する心、伝統文化の継承、国家の発展への寄与と発展していく様子が見えてくる。また、試合会場では日本人だけでなく外国の方々も日の丸を振って応援してくれた点から、他の国々への理解と尊敬が視点としてあげられる。授業では、世界の中の一員としての意識とかがわって、ねらいについて考えさせることが大切である。

IV 研究の成果と課題

1 まとめ

「日本人としてのアイデンティティ」をはぐくむ指導の充実を図るため、内容項目4-(9)を通じた効果的な指導の工夫について研究に取り組んだ成果として、次のようなことがあげられる。

- (1) 日本人としてのアイデンティティは、学校、家庭、地域社会がそれぞれの役割を果たし、連携を取り合うことによって育てられるものである。中学生の時期は、我が国の国土や歴史に対する理解が深まり、文化や伝統に対しても一層関心をもつようになる。この関心をさらに高め、国を愛する心と国家の発展に寄与しようとする態度を育成するためには、自らの国の文化や伝統を深く理解し、尊重する態度を身につけることが重要である。身近な人々や地域とのかかわりの中から、歴史や文化・伝統を学び、郷土や国を愛する心をはぐくむためには、家庭との一体感などをはぐくむ家庭教育、学校への愛着や誇りなどをはぐくむ学校教育などが重要である。
- (2) 「日本人としてのアイデンティティ」の育成は、子どもたちの学校生活、家庭や地域社会での日常的な体験や行事、慣習、行動様式とかかわっている。学校においては、各教科・特別活動及び総合的な学習の時間等と関連を図り、家庭や地域社会と連携し、学校教育のそれぞれの場面において「日本人としてのアイデンティティ」の育成に関する一貫した指導を行うことが大切である。指導計画の作成は、それらの計画的な推進に際して重要な役割を果たすものである。
- (3) 研究の基本的な考え方にに基づき、「自己」の関与する空間の広がりを促進する視点としてあげられる「日本の文化・伝統の継承」、「国家の発展に尽くした人々への感謝・尊敬」を主題として授業を構想し、検証授業を実施した。

資料の選定に当たっては、読み物資料40点余を比較検討した結果、「日本の文化・伝統の継承」、「国家の発展に尽くした人々への感謝・尊敬」を視点とする二つの資料を選定した。こうした資料を効果的に活用するために、資料の特質に応じて、BGMや小道具、VTRを使うなど、提示の仕方を工夫した。

- (4) 平成15年度文部科学省の「道徳教育推進状況調査」における都内公立中学校が「重点としている内容項目」の調査結果による指導の実態にもみられるように、内容項目4-(9)の指導事例は、他の内容項目と比較して極めて少ない。内容項目のとらえ方、資料選定の着眼点などを明確にして、ねらいに迫れるよう指導に当たることが必要である。

2 今後の課題

- (1) 生徒の感性に訴え、日常生活を振り返りながら、内容項目4-(9)のねらいに迫るためには適切な資料を提示することが大切である。今後とも、道徳的価値の内面的な自覚を深めるための要件を満たした資料の開発が求められる。
- (2) 資料に含まれている道徳的価値に迫るためには、的確な発問が重要となる。ねらいに迫るための有効な発問構成について、さらに研究する必要がある。